

[CP23] チーム医療セッション 一般演題 (ポスター) 非侵襲検査・エコー 1

2015年4月25日(土) 10:10-11:00 ポスター会場6 (グランフロント大阪 北館 タワー B 10階 ナレッジキャピタル カンファレンスルーム B01+B02、B05~B08)

座長: 岩永 史郎 (埼玉医科大学国際医療センター 心臓内科)

CP-132

家族性高コレステロール血症患者のアキレス腱評価における超音波法の優位性

道倉 雅仁¹、小倉 正恒¹、山本 真大²、関本 雅彦²、富家 千鶴¹、河野 雄平³、柳 光司⁴、斯波 真理子¹

1:国立循環器病研究センター研究所 病態代謝部、2:健康保険組合連合会 大阪中央病院 中央検査部、3:国立循環器病研究センター病院 高血圧・腎臓科、4:健康保険組合連合会 大阪中央病院 循環器内科

【背景・目的】家族性高コレステロール血症 (FH) は高 LDL-C 血症、黄色腫、若年性冠動脈硬化を特徴とする高頻度の遺伝性疾患であるが、本邦での診断率は低い。FH 診断のための軟線撮影によるアキレス腱肥厚 (ATT) 測定法には撮影条件の煩雑さや放射線被曝の課題があるため、我々は簡便かつ非侵襲的な超音波法の開発に取り組んでいる。今回我々は、超音波による ATT 評価の有用性および動脈硬化との関連について検討した。【対象・方法】国立循環器病研究センターまたは大阪中央病院に通院中の FH ヘテロ接合体患者 229 名と非 FH 患者 120 名を対象とし、ATT と頸動脈内膜中膜複合体厚 (cIMT)、冠動脈疾患 (CAD) の有病率との関連を検討した。さらに超音波エラストグラフィを用いて測定したアキレス腱の弾性度 (E 値) の臨床的意義を探索した。【結果】FH 患者の ATT 測定において超音波法は軟線撮影法と良好な相関性を示した ($R=0.83$)。FH 群では ATT と cIMT は正に関連したが、非 FH 群では関連性を認めなかった。また E 値と ATT との間には負の関係性があり、FH 群は非 FH 群に比し E 値が低値を示し、ATT は高値を示した。さらに FH 群における E 値の低値および ATT の高値は、CAD 有病率と関連があった。【結論】FH 診療における超音波法による ATT 測定法は簡便性、安全性に加え、質的評価が可能である点で軟線撮影法よりも優れた検査法と考えた。今後は超音波法による ATT 測定法の標準化、FH 診断のための基準値の設定を目指したい。